

2015年7月、12名の会員と姉妹都市の蘇州市から元国際交流員として金沢で1年間仕事をした方等3名（中国人）が同行し、植林事業の現地を訪れた。

・寧夏回族自治区呉忠市（黄土丘陵における水土保持造林事業）

黄土高原の乾燥地帯で、木を植えて自然環境を取り戻すための植林である。年間降水量が181mm、日本では1日で降ることもある降水量でしかない。こんなに水の便の悪い環境は日本に住んでいる限り想像もできず、現地ですらそれを実感する。



現地スタッフの熱意を感じながら、生態保護により日本へ飛んでくる黄砂の量をいささかでも減らすことに役立つことを希望しながらこれまでに植樹した木の生育状況などを見て回った。中でもニセアカシアが大きく育ち小さな森（大げさ？）を形成しているのを見て、植樹の成果を実感した。

・青海省西寧市楽都県（荒漠化防止モデル事業）

現地は標高3,000mを越す高地で降水量も少ない高地冷涼地帯である。今回は雨により現地への道路が寸断されてしまったということから、現地スタッフとの意見交換会に時間をさいた。植樹状況の報告を聞き、意見を出し合いそれぞれの想いを忌憚なく話し合うことができた。夜の交流会のホスト役は女性幹部であったが、おおらかな性格とおもしろい話をしながら皆さんに酒をついでまわり、おおいに場を盛り上げてくれ楽しい交流ができた。



・内蒙古自治区阿拉善盟

世界の砂漠を緑で包む会（事務所：金沢市）の活動拠点であり、砂漠地や寒冷地での苗の育成管理方法、植え付け手法等を勉強するため毎年訪問している。現地のスタッフ以外

に、元市長や会社社長といった方々との交流もでき、現地で育成した苗を記念植樹した。

・中国における交流

当協会の活動理念の1つに中国人留学生との交流促進がある。金沢で留学生活を送った若者が国へ帰れば中国発展の担い手となり、日本への理解を広げる発信元となってくれるとの思いからである。

そのようなことから、当協会の訪中団は訪問地で、金沢市に縁のある方々との交流会を必ず開催している。今回も上海市と西安市で、近在の元留学生やその家族、金沢に縁のある友人・知人を招待して交流会を開催した。金沢でカップルとなり、子供を連れて参加した元留学生が「この子もゆくゆくは日本に留学させたい。」などの発言があり我が意を得たり、であった。